

愛労連第 60 回定期大会あいさつ(要旨)

ウソと偽装で塗り固め、9 条改憲に一気に突き進もうとした安倍政権でしたが、参院選で改憲に必要な三分の二を割り込み、直ちに改憲はできなくなりました。この選挙で市民と 5 野党が協定した 13 項目は安倍改憲反対のほか、原発再稼働と沖縄辺野古基地反対や消費税増税ストップなど、いずれも私たちが求めているものです。市民がまとまって野党を結束させたことが安倍暴走政治にストップをかけています。

昨年末には政府による賃金統計偽装が発覚しました。その後 1 月から 5 カ月連続で実質賃金が下がっています。そこに政府の年金引き下げにより 65 才で 2,000 万円不足することが明らかになりました。すでに夏休み計画の縮小など、家計消費節約が始まっています。10 月に消費税が引き上げられると経済的危機が起こりかねません。この夏は平和の課題と合わせて消費税増税ストップの闘いが重大な事態となります。

今回の参院選投票率は戦後 2 番目の低さとなりました。この要因として自分のくらしや願いと政治の関係がわからないことがあります。職場や友人とも政治の話をするのがなく、ニュースもネットでしか見ないため、他人事になっています。たまに政治の話聞く機会があっても、全くわからないことばかりということはないでしょうか。

これは選挙だけでなく、私たち労働組合の活動にもあてはまります。労働組合は 1 人ずつ違う要求を話し合うなかで、互いの要求を認め合い、団結することができます。しかし世代間の違いに加えて、勤務時間が長くかつバラバラで、話し合うことが難しくなっています。さらに非正規労働者の割合が大きくなり、労働条件でも大きな格差ができています。こんななかで、労働組合が何をやっているか、何をしたらいいのかわからず、使用者に任せておけばいいという雰囲気になっていないでしょうか。労働組合には、常に労働者をバラバラにしようとするものとの知恵比べが求められます。

「下流老人」の著者、藤田孝典さんら若手活動家が自らの経験を踏まえて、「闘わなければ社会は壊れる」と訴えています。これまでの経験だけに縛られず、今の時代に求められるものに挑戦していくことが重要です。変わるためには自らが変わらなければなりません。今年結成 30 年を迎える愛労連も新たな時代にむけて、職場と地域の団結を固め、前進していきましょう。

2019 年 7 月 28 日
愛知県労働組合総連合
議長 樽松 佐一